



川崎医科大学総合医療センター ドクターインタビュー

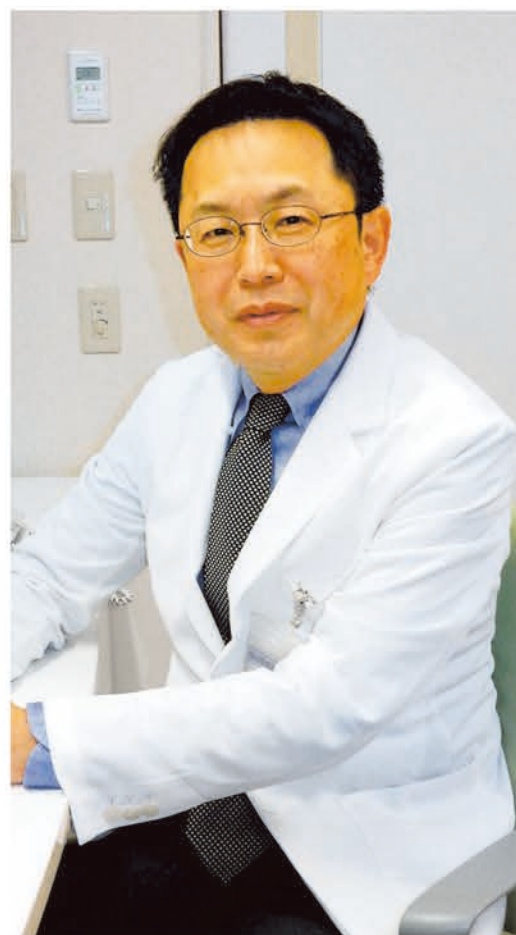
不整脈の一種である心房細動の患者が高齢化に伴って増え続けている。動悸や息切れといった症状が出て加齢のためと思込んで受診が遅れ、心不全や脳梗塞に至るケースもある。自覚症状がないまま症状が進行することもあり、やっかいな病気だ。不整脈治療を手がける川崎医科大学総合医療センター内科部長の永瀬聡教授に、発症のリスク要因や症状、治療法を聞いた。(二羽俊次)

正常な心臓は右心房の上部にある洞結節というところで電気が発生し、心房、心室へと伝わり、規則正しく収縮して全身に血液を送り出されます。しかし、心房細動になると洞結節からではなく心房のあちこちで電気信号が発生してけいれんしたように動き、脈拍が速くそして間隔が不規則になり、不整脈になるのです。

「心房細動を引き起こす要因にはどのような疾患がありますか。」

「高血圧、糖尿病、慢性腎臓病、肥満などがあります。加齢も大きな要因です。肥満の人に多い睡眠時無呼吸症候群もリスク要因です。心臓弁膜症や心筋症、狭心症といった心臓の病気が原因で、」

内科 永瀬 聡教授



ながせ・さとし 岡山大医学部卒。尾道市立市民病院、岡山大病院、福山循環器病院、国立循環器病研究センター(大阪府吹田市)を経て、2024年、川崎医科大学総合内科3(循環器内科・腎臓内科) 主任教授に就任。日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会専門医、医学博士。



カンファレンスを開きスタッフと治療計画を共有する永瀬聡教授(左手前)

因で心房細動が起こることもありまね。

「国内の心房細動の推定患者数を教えてください。」

「潜在的な患者を含めると200万人程度いるのではないかと推計されています。80歳の年齢で、5、6%程度は該当すると言われています。そして高」

「自然と治ることはなく、徐々に動悸や息切れの回数は増えていきます。一般的には発症から10年で5割の方が慢性的な状態に陥ります。発症からの期間が長くなるほど治りにくいことが分かっています。」

「進行すると大きな血栓ができて重度の脳梗塞や、脈が速くなることによっ」

「心臓が弱って心不全を起したりします。さらに、心不全が悪化し血液を送り出す機能が低下するとあちこちの臓器にも悪影響が及びます。」

「心房細動が見つかることのような治療をするのでしょうか。」

「従来は薬物療法が第1の選択肢でしたが、あくまで症状の緩和を図るもの」

「心房細動が見つかることのような治療をするのでしょうか。」

「心房細動が見つかることのような治療をするのでしょうか。」

効果高いカテーテル療法

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「正常な心臓は右心房の上部にある洞結節というところで電気が発生し、心房、心室へと伝わり、規則正しく収縮して全身に血液を送り出されます。しかし、心房細動になると洞結節からではなく心房のあちこちで電気信号が発生してけいれんしたように動き、脈拍が速くそして間隔が不規則になり、不整脈になるのです。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「まず動悸や息切れ、疲れやすいという症状が出ます。その時にすぐ受診すればいいのですが、一年だから体力が落ちてきた」と軽く受け止め、放置するケースも多いです。たいした自覚症状がなく少しずつ悪化し、最終的に心不全や脳梗塞を起すことも珍しくありません。治療が遅れると生命に関わる恐れがあるのです。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」



カテーテルで治療する永瀬教授(右)

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」

「心房細動とはどういう病気でしょうか。」